

# しば子先生の

ミ

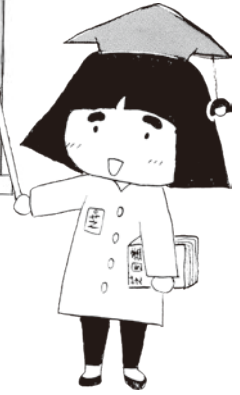
ニ

ミ

ニ

# 芝生教室

## 第 123 回 速さ



先生：スティンプメーターの使い方を説明したけど、一番大切な事は、3つの球の誤差がなるべく無いようにしないと正しく測れないという事ね・・・

生徒：誤差を **20cm 以内**にしないといけないという事でした・・・

先生：それを忘れないでスティンプメーターの扱いに慣れないといけないわね・・・最新のスティンプメーターはアンジュレーションのきついグリーン用の **"1/2"** の距離で測れる機能が付いているから便利になっているわね・・・最新のスティンプメーターはアメリカの USGA のホームページから直接買えるから便利よ・・・

生徒：でも英語のサイトですよわね・・・

先生：そうね・・・日本語じゃないわ・・・困ったら相談してね・・・

生徒：結局スティンプメーターでグリーンの速さを正確に測ることによってグリーンの良し悪しが決まってしまうという事になってしまうんでしょうね・・・

先生：そこが問題・・・『早いグリーン=いいグリーン』という単純な話では無いのよ・・・

生徒：そうなんですか・・・7フィートより8フィート、8フィートより9フィートじゃないんでしょうか・・・

先生：まず最初にUSGA自身が言っていることだけど、スティンプメーターでどの速さのグリーンが良いという事は USGA では一切言っていないのよ・・・USGAの見解は『グリーンのスピードは各々のゴルフ場の判断にゆだねる』と言っているの・・・

生徒：そうなんですか・・・トーナメントならこのぐらい、通常の営業コースならこのぐらいという事ではないんですね・・・

先生：大事なのは「**適正なグリーンのスピード**」というのはどのコースも**同じではない**という事なの

生徒：でも 8 フィートならどのグリーンでも 8 フィートですよわね・・・

先生：その話ならいい例があるわ・・・砂漠の中の平らで何十キロ先まで見通しのいい直線の広い道ならたとえ時速 100km 出しても全く怖くないわね？

生徒：はい、私ならもっと出しゃうかもしれません・・・捕まらなければ・・・

先生：じゃあ山道の狭いつづら

折りの道だったら同じように時速 100km 出せるかしら？しかも下り道だったりしたら・・・

生徒：いや・・・それは無理ですよ・・・ノロノロじゃないと事故っちゃって崖に落ちます・・・

先生：パッティングスピードもこれと同じなのよ・・・

生徒：なるほど！・・・グリーンのアンジュレーション・・・つまり傾斜がきついグリーンとわりと平らなグリーンでは適正なスピードが違うという事ですね！

先生：そういう事・・・もちろん完全メンバー制のコースなのか、ビジターだけのコースなのか、トーナメントや競技をするコースなのかでも違うわね・・・

生徒：でもそうするとゴルフ場の誰かが「**適正なスピード**」を決めないといけないですね・・・

先生：そうなのよ・・・お客さんだって初心者から上手な人まで沢山いるからどう決めたらいいかは本当に難しいわね・・・

生徒：お客さんに「遅すぎる」とか「早すぎる」とか言われたってよく聞きます・・・

先生：アメリカでもそれは議論になってもあることがあるわ・・・そのためにあるメンバーコースのあるキーパーさんがやったことなだけで・・・まず毎日グリーンのスピードを測り、それと同時に毎日ラウンドしているプレーヤー全員にプレー後にアンケートを取ったの・・・アンケート用紙には「**早すぎる / 早い / 適正 / 遅い / 遅すぎる**」と書いてあってどれかに○をして出してもらう形式なのね・・・そしてそれを一年間やり続けたの・・・

生徒：なるほど！・・・そのアンケートの集計結果でどのグリーンの速度がより多くのメンバーによって適正なグリーンのスピードと感じられるかが統計的にはっきりするという事ですね・・・

先生：そういう事ね・・・アメリカでもメンバーコースのコース委員会でグリーンの早いとか遅いとかの議論でもめてしまつてキーパーさんは結構困ってしまう事があるんだけど・・・そもそも早いとか遅いとかは感覚的で個人差があるので、こういったアンケート方式で論理的に適正なスピードを割り出すことによって多くの人が納得するそのコースの適正のスピードを割り出すことができるわね・・・

しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・  
shibako@hugh-enterprise.co.jp

《芝生教室のバックナンバーはこちらから》

